

## 自分が出ること

熊本市消防団  
第80分団 第1部  
部長 境 大助

私が消防団に入団したきっかけは、10年前突然職場に掛かってきた当時の部長からの電話でした。地元である植木に帰ってきて間もなく、消防団のことをなにも知らなかった世間知らずな私は、部長に誘われるがまま近くの消防小屋へ、配布物を取りに行く事になりました。そこには同時に入部することになる年上の2名の先輩方がおられました。部長や他の団員の方とは既に面識があるようで、職場が近いというだけで誘われた私だけが全くの新参者のようでした。私は自宅が消防小屋から離れていることもあり、仕事の都合上なかなか活動に参加するのは難しいのではないかと不安に思ったことを覚えています。

消防団の職務内容をほとんど知らずに入団した私ですが、団員の皆さんは新参者の私にとっても良くしてくださり、また話すと本当に楽しい方ばかりで、訓練や点検、夜警など、消防団の集まりに行くことは幸い全く苦になりませんでした。

ただ、消防団員として過ごししばらくすると、次第に引け目に感じるようになってきました。それは、やはり平日、日中の災害時に出勤が全く出来ないということでした。勤め人だから仕方がないのかもしれませんが、積載が出動した次の日に消防小屋でホースを洗うとき、実際に現場に駆けつけた団員に申し訳無さを感じてしまうようになってきました。せっかく消防団に入ったのに、あまり部の役には立っていないのではないかと考えるとことが多くなりました。

そのような日々を過ごした後、ある転機が私に訪れました。入団6年目に小型ポンプ操法の選手に3番員として選ばれたのです。操法の練習であれば仕事が終わった後、どうにか私も参加できます。今まで災害の現場になかなか行くことができなかった分、ここでなんとか部の役に立ちたい強く思いました。

操法の練習は初め戸惑うことばかりでしたが、普段楽しい冗談を交し合う先輩たちが、練習中は本当に真剣に取り組んでいました。リーダーシップ満点の指揮者の元、選手たちの動きはどんどん洗練されていき、声も出るようになってきました。練習は選手達だけでやるものと思いましたが、実際は部の先輩方、分団長、副分団長達がとても献身的にサポートをしてくださいました。結果、私たちは方面隊の予選会で優勝することができ、とても大きな自信を得るようになりました。

この経験を通じて、実際の災害現場に行けず申し訳ない気持ちでいた自分の心が、少し落ち着いてことを感じました。入団して初めて、少しはみんなの役に立てたのではないかと、思うことが出来ました。

現在植木町でも高齢化が進み、地域の自営業の方も後継者不足に悩んでおられます。私の地元では『消防団は地域の自営業を営むものが率先して団員になる』ことが通例でしたが、そのような方針はどんどん成り立たなくなってくると思います。今後は地域に住んでいる勤め人の方の協力が必ず必要になってきます。とはいえ、会社勤務の方は、日中の緊急災害時の出動はほとんど不可能だと思います。しかし、災害に出動した方のサポート、地域の行事に参加することなど、必ず自分が活躍できる場所があるのではないかと、そういった災害以外の活動に参加することで、消防団員として地元に貢献できるのではないかと、思うようになりました。

私は昨年から80分団1部の部長となりましたが、未だに日中の災害時の出動は難しい状況にあります。しかし、部長として団員の皆さんがスムーズに消防団活動ができるよう、できるだけのことをしていきたいと考えています。また、団員不足に関しても、『日中の仕事が忙しくて消防団に入るのはちょっと..』と考えている方々に、自分の体験も伝え積極的に勧誘をして行きたいと思っています。

ご清聴ありがとうございました。